

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会
令和5年度 第2回 認知症対策部会 会議録

開催日時	令和5年10月25日(水) 午後2時00分～午後3時35分
開催場所	生駒メディカルセンター 研修室
出席者 (委員)	山上部会長、中溝副部会長、森川委員、徐委員、古田委員、新谷委員、小津委員、笹本委員
事務局	福祉健康部 吉村部長、田中次長 地域包括ケア推進課 後藤課長、秋永主幹、田村係長、杉谷、稲垣
傍聴	なし
案件	(1) 認知症月間の取組(報告) (2) 多職種連携研修(案) (3) 「認知症カフェ・本人ミーティング」と「医療機関等」との連携 (4) 認知症カフェの通称 (5) 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画(案)(認知症関係)
資料	会議次第 (資料1) 認知症月間の取組 (資料2) 多職種連携研修(案) (資料3) 「認知症カフェ・本人ミーティング」と「医療機関等」との連携 (資料4) 認知症カフェの通称 (資料5) 高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画(案)(一部抜粋)
議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
事務局	<p>1 開会 会議の公開、録音了承</p> <p>2 案件 案件(1) 認知症月間の取組(報告) (資料1により事務局から説明) 本年6月に成立した認知症基本法によって、9月21日が認知症の日および9月は認知症月間と明記されている。これに伴い、幅広い世代に向けた認知症の正しい普及啓発の理解を目的として、今年度も市内の様々な場所で認知症関連事業を実施した。</p> <p>① 生駒駅前図書室の展示 昨年度に引き続き、展示スペースを使って展示をした。期間は9月2日から9月24日。ここではパネル展示、および冊子「認知症の基礎知識」の配布を行った。約150部配布。昨年度は、ここでイベントをしたが、今年は展示のみ。</p> <p>② ベルテラスいこま それに代わり、ベルテラスいこまベルステージにて、イベントを実施した。先</p>

立って、認知症対策部会でもベルテラスいこまで、買い物客向けに啓発事業をできないかという意見をいただいていた。

土曜日の10時から15時まで、認知症地域支援推進員による相談ブース、主に子ども向けにロバ隊長のキーホルダー作りと認知症のクイズラリーを実施し、保護者の方にも足を止めていただけるような取り組みを行った。

他には「ロバ隊長のフォトスポット」や、認知症のシンボルカラーのオレンジオレンジジュースの配布、冊子「認知症の基礎知識」を配布するというようなイベントを行った。天候に恵まれ、午前中の時間帯が一番人も多く、キーホルダーも早々に30個完売し、クイズラリーも約30人の方に参加をいただいた。クイズラリーの中身は前に投影したスライドのとおり。これは、認知症地域支援推進員を中心とした推進部会で中身を検討し、子どもから、その保護者の方も一緒に楽しんでもらえる中身とした。展示しているパネルを読めば、クイズが解けるように誘導するというようなクイズを作った。

③ イオンモール奈良登美ヶ丘での展示

昨年度に引き続き、9月1日～10月2日まで1階の駅から直結の入口で展示をした。こちらではパネル展示と冊子の配布をして、約600冊の資料を配布できた。配布すると、早々になくなる状況だった。

④ イオンモール奈良登美ヶ丘での当日イベント

イオンモールではイベントも行った。昨年度は3日間実施をしたが、今年度は平日1回、日曜1回と10時～16時に実施した。当初からイオンモール奈良登美ヶ丘から、職員向けの認知症サポーター養成講座をしてほしいと言われており、公開講座（認知症サポーター養成講座特別版）としてイオンの3階のイベントスペースにて実施し、一般客と一緒に参加された。2日間6回講座をして67人の受講があり、うちのスタッフの従業員は27人の受講があった。ここでもロバ隊長のキーホルダー作り、クイズラリーを行い、約50個作られ、大人から子供まで好評だった。クイズラリーは、17日のみ実施し、40人参加があった。

VR 認知症体験会というのを実施し、事前予約制になっていた。事前予約の段階では15名ほどしか申し込みがなかったが、当日参加される方が多くいた。動画自体は3種類。1人で3種類を体験する方も多く、延べ64人の参加があった。認知症地域支援推進員による相談会の実施。地域包括支援センターとの繋がりにより、イオン薬局がお薬相談ブースをしていただいたが、実績がなかったということで、来年度以降は講座を受けられた方等にご案内できたらと思う。

⑤ 市民フォーラム

認知症対策部会としても山上先生にご挨拶をいただき、MCIをテーマに京都府立医科大学大学院教授の成本先生に講座をしていただいた。

定員250人として、自治会回覧、広報誌、HPなどで周知をしたが、申し込み開始から5日ほどで定員に達した。主に自治会回覧を見てそのまま電話してくる方もとても多く、「認知症の予防」に大変興味があり申し込む方が多かった。当日の参加者は187人だった。

この認知症月間に合わせて集中的に実施し、多くの方にご参加いただき、かねてから認知症対策部会の方でも普及啓発の対象としております若い世代、小さい子供がいる世代など普段なかなか啓発しづらい年代の方に、イオンモールやベルテラスで実施することによって認知症に触れていただく機会になったと思う。

来年度以降は、認知症の当事者の方や、様々な方を巻き込みながら実施してい

<p>部会長</p>	<p>きたい。</p> <p>色々な活動をしていただいていると思う。</p> <p>今お話あった市民フォーラムは、最初参加させてもらい、ご高齢の方が多く印象だったが、イオンモールやベルテラスいこまは、若い方への啓発に繋がったのではないかなと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>イオンモールで冊子は置いているだけか。</p> <p>はい。そこを来訪する方が、1人で3部とか取っていかれる状況もあったようだ。準備をしに行った段階で、既に持っていく方がいた状況。</p>
<p>部会長</p>	<p>VR 認知症体験会は、あると知っていたら、結構見たいと思われる方多いんだろうなと思ったが、VRの予約方法は？</p>
<p>事務局</p>	<p>イオンモールで全体のイベントとしてのチラシを作成して看板を出していた。あとはHPと、SNS、広報誌。ただ、なかなかVRのイメージがつきにくい方が多かったのか、当日その機器を見られて、体験してみようという方が多かったが、申し込み段階でピンときてない方が多かった。1回あたり20分で、1時間に3回体験会を実施した。買い物ついでに受けられた方が多かった印象。</p>
<p>部会長</p>	<p>VRは人気があったようだ。事前の周知が大切だ。</p> <p>薬局も相談ブースを作っていたが、相談がなかったようだが。</p>
<p>委員</p>	<p>この日は、薬よりも認知症に関心があったのではないかな。一般的な薬というよりは、イベントが楽しいから、そちらに皆さん集中されたのでは。</p> <p>福祉の相談活動とかでも基本的にはできると思う。ただ医療機関、医療人として参加してるのであれば、相談があってもよかったのかなと寂しい思いもする。</p>
<p>委員</p>	<p>VR 認知症体験を、私も市役所で体験したが、本当に認知症の頭の世界がわかった感じがしたが、イベントに来られた方の感想はどういったものがあったのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>包括支援センターの方や介護事業所の方にも周知し体験いただいた。一般の方もそうだが、その動画の中の一つにレビー小体型認知症の幻視が見えている方の体験で、本当に犬が横切ったり、急にぱっと消えたり、あるいはその家に入ったら、もう既に目の前に壁を向いて立ってる男の人がいる、そういったことが本当にこういうふうに見えるのだなというような感想であったりとか、車から降りるのを拒否される方について、何で拒否されるのかっていうことで、その本人は車から降りるだけの段差を、高層ビルから降りるというような認識になられている見当識の障害で、その距離感の感覚がなくて、介助者が優しく声をかけてくれるけれど、本人は高層ビルから飛び降りるみたいな視点になってるっていうようなことがあって、それも専門職の方であっても一般の方であっても、このように見えていることがわからないので、よい体験だったという意見はよく見られた。あとは、ご家族が認知症かもと思ってらっしゃる方が、本人さんの理解のために来られてることも多かった。</p>

委員	今の VR で車の段差がビルから飛び降りるぐらいに感じるっていうのがあったが、何かその感想を言われたり、正しい対応は何だったのかという質問があった場合、どう答えたのか。
事務局	本人はこのように見えているとわかったと思うので、寄り添った対応、具体的には焦らせて降ろすようなことはしないで、ゆっくり降りるとか、ビルから飛び降りる怖い感覚をなくすために、例えば前に立ってあげるなどをお話させていただいた。
委員	感想はそれぞれだが、そのときにどんなふうに対応するかとか、どう答えてあげられるかが、また次の支援に繋がっていくのかなと思う。 その辺も、私は聞かれたらどうしようか、そこは難しいなっていうところだったので参考にさせてもらいたいと思う。
部会長	市民フォーラムは、応募人数が定員に達し、早々に締め切ったとのことだが、実際187人だった。参加できなかった人がいる中、これは結構残念だったと思うが。
事務局	200名受付のところを、250名まで一旦受け付けたが、実際は来られなかった人がいたということだ。当日飛び込みで来られた方が何人かいらっしまったので、その方たちにはご参加いただいた。 思った以上にその認知症予防というキーワードに興味を持っていただき、会場を大きくするなりしてほしいというお声もいただいたので、また次回に生かしたいと思う。
委員	やはり意識が高くなってると、すごく思う。皆さんやっぱり活動のおかげもあってかなと思うが、先ほどチラシも1人3枚ぐらい持っていきおっしゃっていた。なかなか対策難しいと思うが、残念ながら応募できなかったっていう人がいなくなったらいいところ。
事務局	案件(2) 多職種連携研修(案) 第1回の対策部会での委員の意見から、65歳問題と言われる問題をテーマにして、他職種連携をさせていただき検討をしていくという了承いただいている。来年1月13日PM2時から4時までで市役所内会議室で開催予定。 構成としては講義30分程度で、グループワークを40分程度、最終的にまとめをさせていただき構成で大体1時間半ぐらいを想定している。講師は、やまと精神医療センター 地域連携推進室の前田 智氏。グループワークには、ここにお集まりの皆様にも入っていただいて進めていく(ファシリテーター)。精神障害のある方が55歳になったときに精神保健福祉法等で支援を受けておられた方が、年齢とともに介護保険制度に切り替わるのは、そんなに簡単なものではなく、本人の戸惑や支援者も異なってくるので、事例検討を通して共有していきたい。
部会長 事務局	講師はどのような方か？ 生駒市初期集中支援チームのチーム員で、精神保健福祉士。 資料は、対策部会の委員には先にお渡しする予定。参加者には当日配布。 事例内容を深堀するのではなく、主観を共有できればと考えている。
部会長 事務局	ファシリテータをする際に注意することは何かあるか。 グループワークの発言を促す役割をしてほしい。

委員	<p>ご入院されてる方が退院されて地域に帰るにあたっての色々なハードルを初めてお伺いしたんですが、何十年も入院されてるケースが多いから、入院した当時になかったものがあり戸惑うというのが今のお話かなと思うが、今回の研修会は、入院されてる方が地域に帰られるにあたって、それを受け入れる医療介護の体制としての問題を話すということでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。課題の指摘というよりは、知っていただき、建設的に物事をとらえ、地域で過ごしていける可能性を事例を通じて、皆で考えてもらえる機会にしたいという話を、講師ともしている。</p>
委員	<p>あまりこのような機会に接したことが無いので、まだどのように話し合いを導いたらよいのかまでは難しいが、事例を通じて、不可能を可能にしていくという視点を共有できればとういうことは理解できた。</p>
事務局	<p>案件(3)「認知症カフェ・本人ミーティング」と「医療機関等」との連携 生駒市では「認知症カフェ」や「本人ミーティング」を定期的に開催している。認知症カフェは、今年、認知症地域支援推進員をはじめとする地域包括支援センターさんが深く関わっていただき、社会福祉協議会地域包括支援センター圏域で7月に「マリーゴールドの会」が立ち上がり、現在、市内6か所で定期開催している。生駒市としても、今年度から立ち上げに係る費用などを支援し、認知症カフェの普及展開する事業を促進している。</p> <p>本人ミーティングについては、年1回、ご本人やご家族にご参加いただき、交流会を行っていた。市や認知症地域支援推進員でスケジュールをすべて決めて実施していたが、定期開催に繋がらず、ご本人の思いを話す場とはなっていなかった。今年度からは、若年性認知症の当事者と定期的に ZOOM で直接対話させてもらう機会をいただく中で、様々な気づきがあり、ご本人の思いや、希望、必要としていること、体験してきたことなどを話し合ってください場づくりをしていこうとしている。現在は2カ月に1回定期開催し、基本的に特別な準備をせず、ご本人同士が話し合えるよう、家族とご本人が別の場所で会話してもらえるような配置をしている。以前よりは積極的に、気楽にご本人同士、家族同士でお話をされるようになってきたが、本来私たちが目指しているご本人が自ら、ご自分たちのことを話し合う本人ミーティングにはなっていない状況だと感じている。</p> <p>課題の一つとして、参加者。本人ミーティングには認知症地域支援推進員が地域の人にお声がけをして誘い出しをしているが、認知症地域支援推進員とつながっている人のみの参加となっている。そこで、認知症カフェ、本人ミーティングの趣旨に合致した方に広くご参加いただくために、お集まりの様々な機関でチラシを置いていただいたり、このような場があるとお声がけをいただくなど、つなぐための連携ができないかということ。ご意見をいただければ。</p>
部会長	<p>当事者の方同士、ご家族同士の話し合いもやはり大事で、確かに混ぜて話し合うと家族同士の話が主になるだろう。</p> <p>当事者の参加は、やはり難しいのか。</p>

事務局	<p>当事者の方の参加というのは難しい。</p> <p>現在は、地域包括支援センターで把握されて、関わりがある方をお誘いさせていただいている。広く様々な方に、ご参加をいただいてこの場を広げていきたい。</p>
委員	<p>チラシを各医療機関に置くのは可能。声をかけていくのは、実際どうか。</p> <p>私も認知症地域推進員から話を聞いているが、確かに今までの当事者ミーティングだったら、包括が既に相談を受けて、関わっておられる方と対象者が限定されてしまうので、認知症と診断を受けて、同じような病気の方と話してみたい、これからどうしようとかって不安に思っておられるような方も、そういう場合に行きたいという方にはいいと思うので、診断されたときからでもいけるような、そういう仕組みがあればいい。それが医療機関というのはあると思う。</p>
委員	<p>認知症の方がいらっしやると生活が大変。広報などに認知症カフェの案内が出ているかもしれないが、そこまでキャッチできない。来られた時に、みんなで話できるところはないのかと聞かれて、ご存じなかったので、お住まいの地域包括支援センターに紹介してもらってと何度か言ったが、そのような方が結構いる。認知症カフェという言葉も知らないし、本人ミーティングはもちろん、知らない。でも薬局に来て話すだけでも、気分が少し晴れた、よかったと帰ってくださるような方がきつとたくさんいらっしやるので、チラシなどただけいたら、置いておいて抜き取ってもらえるし、私達がキャッチしたら、薬と一緒にお話もできるので、そういうのを作っていただければ。</p>
事務局	<p>今年度から認知症カフェの普及展開事業始めており、それに伴ってカフェ立上げのチラシ案は作成している。</p> <p>認知症カフェや本人ミーティングの場を知らない方が多いのは事実。認知症と診断された人がすぐに地域包括支援センターに相談に行かれるかというところではなく、包括支援センターに行く方は、何か生活に困り事が起きてから相談に行く方が多い。そのような方をどう拾い上げていくか。</p> <p>認知症カフェであれば、地域の方もいろいろ参加されている中で、認知症地域支援推進員も関わっているのでも、認知症の話もできる。</p> <p>包括支援センターでの相談がハードル高い人でも、カフェであれば、相談しやすい、そこからゆくゆくは包括支援センターと繋がっていくこともできる。認知症カフェも通称を決めて、チラシ等を作成したい。</p>
委員	<p>口バ隊長など、何だろうと思うような目を引くような形で作っていただけたら嬉しい。</p>
委員	<p>診断がついても、すぐどこかに行こうとう人ばかりではない。しばらくは隠しておけるなら隠しておきたかったり、チラシをもらったら決定付くところも逆にある。認知症という言葉が冠につかなかったら、どれぐらいの範囲の人まで来たときに受け入れるのかという難しさもある。物忘れ外来に来てくださる方も、意識のある人ですし、連れてきてくれる家族もある程度覚悟があるので配布して、問題が大きくなる前からちょっと相談できたりとか、顔合わしておくとか後々良いとは思っている。</p>
委員	<p>手に取られる方いると思うが、このチラシをどうぞというのは難しいところがある。</p>
事務局	<p>認知症カフェの名前が変わったら、認知症という言葉はでてくるのか。</p> <p>物忘れなどの言葉は出てくる予定。</p>

	<p>認知症カフェは、認知症という名前がついてるけれども、大人から子供までどなたでも来ていただけるし、専門職も関わってるカフェなので物忘れが気になっている方が相談もできる。本人ミーティングは当事者の思いを話す場。で、できればその認知症カフェに来ている方で、例えば本人同士で喋りたいという方をそちらに案内するルートがある。認知症カフェは広く、誰でも。サロンと違って物忘れのお話もできればというようなところで、本人ミーティングとしては診断がついたり、そういうところを探してる人たちというイメージ。</p>
委員	<p>早期発見早期治療と包括支援センターに確実に繋ぐってということが一番理想だが、その難しさはあると思う。どうやったら繋ぎれるのか。</p>
委員	<p>思い当たる方がたくさんいる。包括支援センターが忙しいのを知っているから、なんでも間でも持っていくのは躊躇する。 だから、その前にカフェとかがあれば、認知症かどうかは関係なく、たくさんの方と繋がって、若い人からお年寄りまで認知症の方がそこで暮らすためには当事者だけで解決する問題ではないので、たくさんの方がその人を知ることがまず大事。この地域にいる人が自分を知ってくれて、誰か助けてくれるかもしれない人がいるという安心感、それが育まれるところが認知症カフェだと思っている。その中で本当に必要があった方が本人ミーティングなどというところに進んでいくと思う。 私達が抽出するのは簡単だけれども、専門職が専門の方に繋いでいくハードルがあることを心にとめておいていただけたら。 チラシなら、コストもかからない。 大変ありがたいお話をいただいた。</p>
事務局	<p>認知症地域支援推進部会でも検討して、作成する。 また、構成の段階で、皆様にメール等でご意見を賜るような機会も作れたらと思う。</p>
委員	<p>パンフレットできたら、薬剤師会の HP にのせてもらえば、薬局は必要に応じてダウンロードする。</p>
部会長	<p>続きまして、案件(4)認知症カフェの通称ですが、何かいいネーミングがないか前回の部会でご意見をいただいた。決定したいと思う。</p>
事務局	<p>どれもいい名称だと思うが、ロバ隊長と名前が付くものは、何だろうと思われるのではないかと。「カフェいこいこ」という名前でイベントをさせていただいたが、明るい感じの印象でカフェに行きませんかというような前向きな、特に深い意味もない、誰でも来られる感じがした。名前を特別化しないところもよい。</p>
委員	<p>カフェいこいこは、行こうと思える、誘ってくれている感じでよい。</p>
委員	<p>生駒の「いこ」と、行こうの「いこ」。2つ重なって私もあなたもってという意味で良いと思う。</p>
事務局	<p>それでは、認知症のカフェを「カフェいこいこ」として啓発等にも使用させていただきます。</p>
部会長 事務局	<p>案件(4)高齢者保健福祉計画第9期介護保険事業計画について 資料5より説明 今年度は第9期介護保険事業計画の策定年となる。現在策定作業を、介護保険</p>

事務局	<p>運営協議会で行っている。本来、この場で、素案をお示しできればよいが、策定段階でお出しできるものがない。認知症関係について、現在策定中の内容をご説明する。</p> <p>「認知症の人が尊厳を保持し希望を持って暮らせる社会の実現」 他の部分よりも手厚く、8項目で考えている。</p> <p>現状と課題については、認知症の人の支援に当たっては、本人の立場にたったパーソンセンタードケアの考えに立つことが重要で、当事者の何々がしたいを応援する。全ての地域包括支援センターに認知症地域支援推進員を配置する。認知症対応型共同生活介護を、新たに今年度2ヶ所設置するなどの事業を実施してきた。認知症サポーター養成講座を始め、様々な啓発事業を実施してきたが、昨年行った健康と暮らしの調査では、そもそも認知症の相談窓口を知らないという方が多かったことから、引き続き認知症に関する周知啓発を行う必要がある。介護者の負担軽減や、就労と介護の両立が図れるようにこの計画で支援をうたっていきたい。</p> <p>方向性については、認知症の方の意思決定支援や、認知症に関する理解の促進、地域での見守り、支援する仕組みの構築、推進員による相談体制、社会参加支援の強化、若年性認知症の人への支援、認知症の方の家族の支援を積極的に取り組んでいきたい。また、基本法が制定されたということで、今後国から認知症施策推進基本計画も出てくると思う。</p> <p>特に認知症の人の社会参加支援と認知症の人の意思決定支援および権利擁護の保護を重点政策において、積極的に推進していきたい。</p> <p>時間的に暇がないので、パブリックコメントの機会を12月18日～1月16日まで設けておりますので、ここでご意見頂戴できたらと思う。パブリックコメントに対しては、回答をすることになり、内容の変更等の対応がとりやすいため、こちらで対応させていただきたい。</p> <p>また、メール等でご連絡させていただく。</p> <p>次回開催は、多職種連携研修を1月に行い、第4回を3月に予定してる。</p> <p>15時30分 閉会</p>
-----	---